

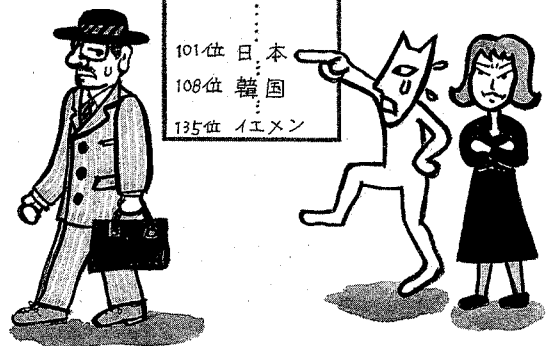
女のニュース 男のニュース

Crossover Critique

斎藤美奈子

文芸評論家

1位	アイスランド
2位	フィンランド
3位	ノルウェー
...	...
22位	アメリカ
...	...
69位	中国
...	...
101位	日本
108位	韓国
135位	イエメン



世界経済フォーラム（スイスに本部のある非営利財団）が毎年秋に発表する「ジェンダーギャップ指数」っていうのがある。あえて日本語に直せば男女平等指数。経済教育、健康、政治の四分野を対象に、男女間格差がどのくらいあるか指数化したもので、私は毎年この数字に注目してきた。

おもしろい（おそろしい？）のは国別のランキングが出ることで、見ればその国の男女平等度がいやおうもなくバレてしまう。

二〇一二年の分は一〇月二四日に発表になった。上位を占めるのはやはり北欧諸国。一位アイスランド、二位フィンランド、三位ノルウェー、四位スウェーデン、五位アイスランドと、上位一〇カ国

のうち七カ国までがヨーロッパ諸国だった。アジアでもっとも順位が高いのは八位のフィリピン。

では、日本の順位は？

これがですね、ハハハハハ（力なく笑うしかない）、予想通りというか予想以上のダメさというか一三五カ国中一〇一位！

一〇〇位あたりをウロチョロしているだけでも「先進国が聞いてあきれ」なのに、二〇一一年は九八位、二〇一〇年は九四位だったから、年々順位を下げているあ

りさまだ。ちなみにアメリカは二位。中国は六九位。OECD加盟国の中でも、日本は一〇八位の韓国と並んで男女平等的には非常な劣等生ってことになる。

世界的に見て日本がこういうレベルにある以上、政府は当然、格差是正の義務を負う。法律面ひとつとっても、民法の改正が進まないなど、やる気のない日本。進歩がまるで見られないため、二〇〇九年には国連の女性差別撤廃委員会（CEDAW）にお叱りを受けた

（具体的には厳しい勧告を含んだ総括所見を出された）ほどだった。そのへんわかっているんですかね、日本の政治家は。

基準はちよつと異なるものの、総選挙を控えた二〇一二年一月下旬、女性の団体や個人でつくる「ジェンダー平等政策」を求める会（呼びかけ人は上野千鶴子さんなど）が各党に対してジェンダー政策に関するアンケート調査を行った。CEDAWの勧告にもとづいて、雇用や労働に関する政策から、子育て支援策、民法改正、「慰安婦」問題、性暴力や貧困まで、質問項目は全部で二六。「不戦と非核はジェンダー平等政策の前提」という考えから、憲法九条や脱原発に対する姿勢を問うているのも

ニッポンの男女平等が、世界的に劣化中！

イラスト◎山口マオ

2013.1.22

婦人公論新報



私たちのカラダはデリケートだから…。

ドキドキしたり、クラツツとしたり、ちょっとしたことで、調子をくずしてしまう私たちのカラダ。救心カプセルは、自然の生薬の力で、自律神経のバランスを整え、血の巡りを良くして、息切れ、どうき、気つけにすぐれた効果を発揮します。

救心カプセル

検索



ハートの●おくすり救心カプセル

救心製薬株式会社

〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7

「血流いきいき読本」進呈

八カ中①千住所②氏名③年齢を明記の上、弊社お客様相談室FK係まで。頂いた情報は資料発送以外では使用しません。但し、個人を特定出来ない状態で統計データとして使用することがあります。

このアンケートの特徴だ。

で、結果はどうだったか。十いくつもの政党が乱立する中、一月六日までに回答があったのは全一〇党。「平等」に「賛成」プラス二、「どちらかといえば賛成」プラス一、「どちらかといえば反対」マイナス一、「反対」マイナス二で計算した「ジェンダー平等政策」指数で満点(五二ポイント)を出したのは社民党と緑の党。どちらも女性が代表を務める党だ。

共産党はクォータ制(公的機関や公的委員会に一定割合の女性枠を設ける制度)以外の項目で2点を稼いで五〇ポイント。

民主党もジェンダー平等政策にまあまあ熱心で四四ポイント。雇用、労働、ワークライフバランスなどには積極的な半面、性暴力禁

止法、刑法の堕胎罪撤廃など、個人的、性的な領域(と思われている分野)に対して公権力が介入するのを避ける傾向がある。

興味深いのは後に日本未来の党に合流した「国民の生活が第一」で、合流前の得点は五一ポイント。民主党より平等志向が高かった。

では、できたての未来の党とはいえ、民主党より低い三三ポイント。これは無回答の項目が多いためで、にわか仕込みの政党らしく党内での議論がまとまっていなのが原因らしい。未知数の党だけに、今後の市民の働きかけがカギとなるかもしれない。

憲法の平等をナメている

さて、ここまではよしとしよう。問題は男女平等劣等国の中でもさ

らに「劣等」な党である。

まずダメなのは合計一一ポイントだった自民党。子育て支援や男性の育児休業取得など、経済に係った分野には積極的だけど、選択的夫婦別姓には反対、婚姻最低年齢の是正にも反対、婚外子相続分差別規定の廃止にも反対、配偶者控除の廃止にも反対。三八ポイントを出した公明党とくらべても、男女平等意識は著しく低い。

でもね、下にはさらに下があるのだ。自民党より悪いのは合計九ポイントだった日本維新の会。この特徴は、両性の平等をうたった憲法二四条に積極的な賛成の意を表明していないこと(どちらかといえば賛成)。個別の政策以前に、姿勢自体がベケなわけ。ジェンダー政策的には超保守でマイナ

ス二ポイントの国民新党、アンケートそのものに回答していないみんなの党も含め、「女性の人権には何の関心もなし」なのだろう。

男女平等意識が低いほど、脱原発には消極的。過去の戦争に対する反省は希薄。概してそんな構図が浮かびあがる。ジェンダー平等なんて末端の政策、と思つたら大まちがいがい。女をナメてる政党は国民をナメてるんですよ。

民主党政権下でも大きな進展は見られなかった男女平等政策。今年度の政府与党はどうなのか。今年は一〇一位から上がるのか下がるのか。しかと見届けてやる!

さいとうみなこ 1956年、新潟県生まれ。著書に『たまには、時事ネタ』『ふたたび、時事ネタ』(ともに小社刊)。「このアンケートは、じつは政党のオヤジ度調査かも。各界の重鎮にも同じ質問をしてみた!」